



廿日市市立佐伯中学校 令和4年度

【自律】学校だより

ホ-4^°-ジ http://www.hatsukaichi-edu.jp/saiki-j/

学校教育目標：「夢や目標に挑戦し、自己実現を図る生徒の育成」

6月号(No.3)

令和4年

6月1日(水)

6月学校暮会「いじめのない学校」【オアシスの老人】

二つの大きな町にあるオアシスに一人の老人が座っていました。そこを通りかかった男が老人にたずねました。「これからとなりの町に行くのですが、どんな町ですか？」老人はこれに答えずに聞きました。「今までいた町はどんな町だった？」男はしかめっ面をして答えました。「たちの悪い人間が多い、汚い町です」老人は答えました「お前がそう思うのなら、となりの町も、たちの悪い人間が多い、汚い町だよ」

しばらくすると、さっきの男と同じ町から、別の男がやって来ました。その男はさっきの同じことを老人にたずねました。老人はやはり答えることなく聞きました。「今までいた町はどんな町だった？」男はにこやかに答えました。「親切な人が多い、きれいな町です」これを聞いた老人は言いました。「お前がそう思うなら、となりの町も親切な人が多い、きれいな町だよ」

二人の男は同じ町で暮らしていたはずなのに、町に対する印象がまったく違います。不思議ですね。町は色々な人や物が集まってできているので、当然いいこともあれば悪いこともあります。二人の男の違いは、町のどんなところに目を向けていたかにあります。悪いところばかりに目をつけてしまう男は、すぐそばにあるいいところに気付くことができません。それに、しかめっ面で自分の不幸をなげいてばかりいる男に親しみを持つ人は少ないでしょう。

一方、いいところに積極的に目を向けることができる男は、いつもにこやかでごきげんです。今そばにあるものを大切に、ありがたがることができます。当然、周りの人たちもそんな男が好きになり、親切にしてやろうと思うでしょう。この二人はどの町に住んだとしても、同じ感想を抱くはずで

自分が身を置いている環境のよしあしは、実は自分の態度や行動次第で変わります。周りの人や環境に不満を感じたら、自分もいやな人間になっていないか、冷静に振り返ってみましょう。

「オアシスの老人」から学ぶこと・・・「視座」(物事を見る姿勢や立場)

➡周りの人や環境は、自分の心や態度を映す鏡

6月に入り、新しい学級や部活等での環境にも慣れてきたころだと思います。「オアシスの老人」から学んだ視座で、自分の心や環境を見直してみましょう。実際、仲間が自分のことやクラスのことを考えて行動していることがあるのではないのでしょうか。視座を変えてみるだけで、これまで気付かなかったことに気付くかもしれません。そういう視座が「いじめのない学校」を創っていくのです。

6月11日(土)には、3年ぶりとなる全校合同での体育祭が行われます。どのクラスも優勝を目指して必死に練習しています。クラスによっては、仲間が本気になってくれないと嘆いている人もいるかもしれませんが、話してみるとその人なりの思いがあるものです。優勝することは目標であって、目的ではありません。優勝を目指して、クラスで団結することが大切なのです。そのためには、その人やクラスのことを棚に上げず、自分の心や態度の在り方に目を向けてみてはどうでしょうか。そうすることによって、絆が生まれると思います。

さあ、体育祭まで、残り10日です。

たった一つの大切な教えは「視座」

最高の思い出をみんなで創りましょう。



「いのちの大切さについて考える日」～道徳の授業を通して～

廿日市市内の全ての小中学校で、毎年5月8日を「いのちの大切さについて考える日」として、「いじめは絶対に許されない行為であること」や「命の大切さ」について考えを深める取組を行っています。今年は5月9日（月）に、道徳の授業を行ったり、生徒会からメッセージが投げかけられたりしました。道徳の授業後の感想を紹介します。

私の知らない遊びだったけど、軽い気持ちで遊ぶことで、いじめにつながってしまうんだなと思いました。命は一人一つのものだから、自分や周りの人の命も大切にしたいと思いました。いじめは人を自殺に追い込んでしまう、とても危ないものだから、私は絶対にしないように気をつけようと思いました。（1年1組）

私はこの話を聞いて、言っている人は軽いノリで簡単に言っていたのかもしれないけど、そこから自殺につながるくらい重いことになることがわかった。自分も何か言うときには、大丈夫かなとちゃんと考えてこれから生活していきたいです。（1年2組）

自分は嫌なことを言っているつもりはないけど、相手からしたら嫌だったかもしれないし、苦手な人を無視したり、気に入らない部分を人に言ったりしていたからよくないと思いました。でも、親しい友達が嫌な思いをしていたら優しい言葉をかけたり、友達をかばったりしていました。いじめのない、嫌な思いをする人がいない学級にするために、嫌な部分だけじゃなく相手のいいところも見て、自分が嫌なことを人にしないように一人一人が考えて、いじめのない学級、学校にしたいです。（2年1組）

いじめのない、嫌な思いをする人がいない学級にするためには、コミュニケーションをとる、笑顔を常にする、目を見て話をする、相談できる関係・話ができる関係をつくる、頭の中で考えたものを踏みとどまって考えてから発言する、自分の得意な項目を一つでも二つでも作る、将来を見据えてこれをやったらこうなるといった逆算して行動することが必要だと思いました。（2年2組）

道徳の授業を通して、いじめをすることは絶対にいけないけど、そのいじめに気付いてあげて止めることも、とても大切な事なんだと感じました。こういうことがあった時、一緒にする側じゃなくて止められる立場の人になろうと思いました。（3年1組）

いじめは小さなことで発展していき、自分が何気なくやっている行動が相手を傷つけることになるから、自分の行動や言動を考える必要があると思いました。また、いじめはきっかけ一つで死に追いやってしまうことがあることが分かりました。だから、止めることや話を聞いてあげることが重要だということが分かりました。（3年2組）

生徒会執行委員は、いじめの構造を図にして、以下のように訴えました。生徒のみなさん、今回学んだことを心に留め、いじめのない学校をみんな創っていきましょう。

生徒会のメッセージより（一部抜粋） いじめは加害者だけでなく、観衆、傍観者もいじめの加害者なのです。加害者とはいじめている人、観衆とははやし立て面白がっている人、傍観者とは見て見ぬふりをする人のことを言います。私たち生徒会は、いじめについて話し合いこう考えました。観衆や傍観者が、「いじめはいけない」などと互いにささやき合ったりして「小さなNO」をたくさん発信し、加害者をはやし立てない空気を作れば、次第にいじめを許容しない空気が出てくる。観衆と傍観者は力を持っていると考えます。「いじめを許さない」という強い気持ちを持ちましょう。本当に、いじめを許さないと思っている人は、はやし立てたり、面白がったり、見て見ぬふりをしません。観衆、傍観者も加害者です。いじめと感じたら、助けてあげてください、声を掛けてください。大人に知らせてください。（生徒会）

「表彰」

【令和4年度大竹市・廿日市市春季総合体育大会】【県大会出場】

【剣道】 女子団体 3位、女子個人戦 3位 江本つかさ

【ソフトテニス】男子個人 3位 柿本政希、堤真瑠

【陸上競技】 女子400R 3位 竹内 優、尾崎瑛南
新久心菜、神鳥玲奈



女子100m 2位 尾崎瑛南

女子走幅跳 3位 竹内 愛

女子200m 5位 尾崎瑛南



【第20回大竹市近郊春季中学ソフトテニス大会】

・男子の部 3位 堤真瑠 柿本政希

【第35回市民スポーツ大会アーチェリー】

・30m男子 第1位 山村日向太

【2022年度 広島県五月大会アーチェリー】

・キャデット男子 第1位 沖野直晴

